上川口小学校
「共に学び高め合い 未来を切り拓く 児童の育成」

校長　今津　一志

◆はじめに

今年度は12名の新入生を迎え、全校児童54名、教職員12名、6学級（特別支援学級1学級を含む）編制で教育活動に取り組んでいます。

さて、水泳が始まり3週間になろうとしています。1週目は水が冷たく、少し体を固くしてのプール始めとなりましたが、2週目からは気温もぐっと上がり、気持ちよさそうに目を輝かせて歓声を響かせています。こうした子どもたちの生き生きと意欲あふれる活動を通して、一人ひとりの夢や希望を育んでいきたいと思います。

◆学校教育目標に向けて

授業を通して子どもたちの力・学力を伸ばすことができるよう力を結集し教育実践に努めています。子どもたちや保護者・地域の皆さんの期待に応え、いっそう信頼関係を高めていきたいと思います。

▽私たちの指導力向上に向け

子どもたちの可能性を広げていくことができるよう、基礎的・基本的内容を身に付け、考え判断し伝える力（思考力・判断力・表現力など）や、問題を解決する力を育み、一人ひとりの自己実現につなげていくことが求められます。校内研究を学校経営の柱とし、全学級担任が授業を行い、互いに見合い、めざす授業を共有し指導力の向上につなげていきます。あわせて、問題解決へ向かう意欲や粘り強く取り組んだり協力したりする姿勢、コミュニケーション能力など、思いや姿勢・態度を大切に育んでまいります。

◆保護者や地域の方々に支えられて

▽運動会実施に関わって

運動会を5月24日（土）に予定していましたが、天候が不順で水曜日に予定していた総練習を前日金曜日に実施することとなりました。そのうえ、翌日土曜日の天気予報は大雨。午前中に、運動会を25日（日）に延期することを連絡し、夕方には午後12時30分より開始することをあらためて伝えました。予報通り土曜日は大雨となりましたが、保護者の皆さんの協力をいただき、それぞれの心に残る運動会にすることができたのではないかと思います。保護者や地域の皆さんと力を合わせた運動会に感謝いたします。

▽伊田・蜷川地区交流会

統合した蜷川小学校と伊田小学校で地域の方々に鳴子踊りを見ていただいたり、体育館の掃除や草引きを一緒に行ったりしています。かけてくれる言葉や関わりからは子どもたちへの思いやり・やさしさ・あたたかさが伝わってきます。地域の方々に大切にされていることを、地域のよさを、感じる交流となっています。

▽上川口マルシェ

今年で7回目となる上川口マルシェ。子どもたちが育ててきた野菜や自分たちで作ったものなどを販売します。昨年は４００人以上の方々が来てくださり、子どもたちは達成感と満足感でいっぱいでした。たくさんの皆さんに支えられてのマルシェです。

◆子どもたちが主体となって価値ある行動を全校に

児童会が中心となってあいさつ運動やげた箱キラリ週間、ロッカーピカピカ週間を設けて取り組んでいます。校内にその週の取組を掲示し、翌週の朝会で子どもたちのがんばりを発表しています。また、放送委員会が学習の準備に向けて、机の上準備習慣に取り組んでいます。「継続は力なり」。朝、玄関に向かう途中、グランドから「おはようございます」と元気な声が聞こえてきます。上川口のよき校風としていきたいものです。

◆生活・学習に向かう意欲を

目標をもって進んでいくためには、安心・安全を、そして周りの人から認められていることを感じられることが、大きな力となります。自己有用感を感じられる関わりを、日々の授業、活動の中で大切にしていきます。

▽なかよし朝会

毎週木曜日、児童会が中心となって全校児童が参加できる遊びや活動（鬼ごっこ、ドッジボール、じゃんけんゲームなど）を考え、朝会時に実施しています。子どもたちの歓声が響き笑顔が広がります。

◆おわりに

今年は統計開始以降最も早い梅雨明けとなり、県内でも最高となる気温が観測されています。休み時間汗びっしょりになって校庭で遊んでいる子どもたちをたくましく思います。子どもたちの成長に向け、保護者や地域の皆さんと手を携え、職員一同取組を進めてまいります。よろしくお願いいたします。

大方中学校
「地域に根ざした学校」をめざして

校長　宮崎　史和

◆はじめに

「中学校は小学校と比べると学校が遠くに感じる」という声を聞くことがありますが、私たち大方中学校は、「地域とともに学び進めていく学校でありたい」と願っています。そこで、昨年度より、本校の教育活動を1人でも多くの保護者や地域に理解してもらい、保護者、地域とともに生徒を育てていく「地域に根差した学校」をめざした取組をスタートしました。今回は、自分たち自身が地域を理解することから始めようと取り組んでいる「総合的な学習の時間」の取組と、本校の教育活動を支援してくださっている地域の方々の活動について紹介させていただきます。

◆地域の一員として

生徒は、豊かな自然と温かい人たちに囲まれた黒潮町のことが大好きです。しかし、自分の出身小学校区のことはよく知っていても、大方全体のことはよく知らないという実態があります。そこで、昨年度より地域に足を運び、大方の良さや課題を理解するとともに、地域の一員として何ができるのか、何をすべきなのかを考える総合的な学習の時間へ見直しを図りました。そのなかでは、「地域に足を運ぶ」ことを意図的に取り入れ、地域に出て、地域の「人・物・こと」に触れる時間を大切にしています。

今年度の1年生は、探究課題となるテーマを「魅力ある黒潮町」とし、地域へ足を運び、地域に住んでいる自分たちだからこそ発信できる大方の魅力を再発見する学習を行っています。2年生は「安心・安全な黒潮町」をテーマに、防災・人権の視点から大方に暮らす自分たちにできることを考え、3年生は「持続可能な黒潮町」をテーマに、人口減少が急速に進むなかで、大好きな黒潮町が持続可能な町となるために、何が必要で、自分たちにできることは何かを地域で働く人と触れあいながら、学習に取り組んでいます。このような取組を通して、生徒一人ひとりが「地域の一員」としての自覚を高め、「大方について語れる人」に育って欲しいと願っています。

◆地域に支えられて

生徒は、毎月行われる地域の方による本の読み聞かせの時間を楽しみにしています。それは、毎回読んでくださる本には、自分たち中学生に感じて欲しいことや願いが込められており、その思いをしっかり受け止めたいと思っているからです。

また、昨年度末には、地域の方が20人ほど来てくださり、大方中学校前の花壇に、スイセンの苗を植えてくれました。この花壇は高所にあり、がれきが多く入っていたため、植物を植えられる状態ではありませんでした。そのため、当日の作業は、石をどけ、土を全て入れ替えてからの苗の植え付けとなるなど、大変な労力を要するものでしたが、この花植えには、地域の方々の「大方中学校の生徒に、地域の人が大切に植え、育てていたスイセンを継承して欲しい」という願いが込められていました。このような地域の方の思いに触れ、地域に支えられていると実感する場を与えてもらっていることで、生徒はさらに地域への愛着を深めていっています。

◆終わりに

読み聞かせや花植え、地域を学び場とした総合的な学習の時間など、どの取組も地域の方々の協力があってこそ成り立つものばかりであり、地域の方々が温かく関わってくださり、支援していただいていることに心から感謝しています。

このような地域の皆さんの思いや願いをしっかり受け止め、引き継ぎながら、地域の一員として持続可能な黒潮町をめざし、取り組んでいける生徒を育てていけるよう教職員一同頑張っていきます。